

「グローバル・キャンペーン2005」

その5 ~ほっとけない 世界のまずしさ~

5月26日、東京で「ほっとけない 世界のまずしさ」の立ち上げの集いが開かれ、約160人が集まった。いよいよ日本でも立ち上がった2005年貧困根絶キャンペーン。果たして、どれくらいの声を結集させることができるだろうか。

グローバルな貧困根絶キャンペーンであるG-CAP (Global Call to Action Against Poverty) は、すでに世界各地で活動を展開しており、ウェブサイト (www.whiteband.org) で紹介されている国・地域は100を超える。国によって、キャンペーンのテーマや手法には違いがあるが、先進諸国においては、「援助の拡充と質の改善」、「債務の帳消し」、「公正な貿易」の3つの主要テーマを中心に、政策目標の設定が行われている。

これまで4回、この連載では、G-CAPの動きについて、全体像、イギリス、米国とカナダ、アジアと紹介してきた。5回目の今回はいよいよ日本である。

日本においても、G-CAP とのゆるやかな連携のもと、キャンペーン立ち上げに向けて準備を進めてきた。昨年9月、ヨハネスブルグで開かれた最初のG-CAPの会合にも参加し、12月には、国連ミレニアム・キャンペーン局長のサリル・シェティ氏を招き、東京でグローバル・キャンペーンに関するシンポジウムを行った。2月には、ロンドンでの蔵相会議に合わせて債務帳消しを求めるストリートアクションもしている。

日本でのキャンペーン名は、「ほっとけない 世界のまずしさ」という。ウェブサイト (www.hottokenai.jp) からの情報発信を中心に、参加の呼びかけを行っている。

5月26日、東京で開かれた「ほっとけ

ない 世界のまずしさ」の立ち上げの集いには約160人が集まった。国際問題評論家の北沢洋子さんに問題提起をしてもらったほか、UNDP駐日代表の弓削昭子さんに国連、とくにミレニアム・キャンペーンからの期待を表明してもらい、NGO関係者などから、「貧困」のイメージについて語ってもらった。

この集いで、「ほっとけない」のマニフェストが発表された。マニフェストでとくに求めているのが、「貧困を世界の優先課題にすること」である。そのうえで、日本政府が援助の質と量を改善することと、そのために2005年に援助の目的が貧困削減であることを政府首脳が明言することを求めている。

また、5月に日本でも封切られた映画『ザ・インタープリター』の劇場用広告でも紹介されているクリッキング・フィルムが流された。これは、世界でも著名な映画人・音楽人が、G-CAPの象徴であるホワイトバンドをつけて登場し、3秒に1回、かわるがわるクリック (指ならし) をするフィルムである。3秒に1回鳴る音が、いま世界で3秒に1人の子どもが極度の貧困で命を落としていることを表している。これは、G-CAPキャンペーンの各国のウェブサイトでも見ることができる。日本人が登場する日本版の公開も近い。

7月初旬には、世界同時アクションの日であるホワイトバンド・デーに、各国でさまざまなイベントが用意されて



CSOネットワーク
共同事業責任者

今田 克司

CSOネットワーク
(www.csonj.org)

国際協力や開発援助の諸活動にシビル・ソサエティを巻き込み、参加を促すことで、一人ひとりの尊厳が保障される社会の実現に寄与する。おもな活動に、CSO(市民社会組織)や国際協力に関する調査・研究、情報発信、異なるステークホルダーの連携促進、貧困削減を目指すグローバルなキャンペーンへの参加など。

Eメール info@csonj.org
URL www.csonj.org



5月26日「ほっとけない」キャンペーンの立ち上げ集いに集まった人びと



参加をよびかける実行委員の林達雄氏(アフリカ日本協議会)

いる。この時期に向けて、日本でも賛同人を募り、「ほっとけない」の輪を広める活動が加速している。ホワイトバンドの一般販売、意見広告の新聞掲載、日本版クリッキング・フィルムの公開などで、世論を盛り上げ、人びとの声をバックに政策要求を展開していく計画だ。

果たして日本の人びとはどの程度反応し、世界の貧困根絶を求める流れにどれくらいの人加わるのだろうか。国外からも、日本の動きは注目されている。